

自分に合った通勤方法は？

理事長室から

木下 統晴

本学理事長と化血研理事長を3年間兼務してきましたが、今年の6月末に化血研理事長を退任しました。この3年の仕事のパターンは、朝、自宅から上通、下通のアーケード街を通り、化血研の花畑事務所に出勤、仕事を午前中にすませた後、大学に10時頃に出勤、夕方7時か8時ごろまで大学で仕事をして、家に帰るというものでした。7月からは、熊本保健科学大学の仕事に専念することになりましたので、通勤が変わりました。この1カ月間、色々な通勤法を試してみました。私は、車の免許を持っていませんので、基本は、歩く、あるいは自転車、それと公共交通機関の組み合わせです。

試したのは

1. 自宅から上熊本駅までバスで行き、その後JRで西里駅
2. 自宅から徒歩で上熊本駅へ行き、その後JRで西里駅
3. 自宅から自転車で上熊本駅に行き、JRで西里駅
4. 自宅から自転車で大学に直行
5. 車に同乗させてもらい、そのあと自転車
6. タクシー

それぞれに、メリット、デメリットがあります。通勤時を活用した運動、ボイスレコーダーでの勉強というメリット、熱中症、交通事故などのリスクを考えながらどれが良いかを検討しました。

その結果、

1. バスは遅れて、JRに乗り遅れたため、通勤に50分ほどかかり、1回でやめました。
2. 徒歩は歩数を稼げるが、汗もすごい。確実にJRに乗れた。通勤時間は約40分
3. 自転車は、この経路は人も自転車も少なく、駅まで約10分、通勤時間約30分
4. すべて自転車でサイクリングコースを走るのは、通勤時間約40分
5. 車への同乗は、申し訳ないので、余程でなければお願ひしない。
6. 歩数を増やしたいので、タクシーは、できるだけ控える。熊本のドライバーさんは良い人が多いので、申し訳ない。

結論としては

自分の時間で管理でき、運動しながら、イヤホンで勉強するには、2の歩行とJRが良いが、過酷な熊本の夏は熱中症のリスクはある。交通などは、歩行者も少なく、自転車も少ないので、余程、暴走しない限り事故のリスクは低いと思いました。このようなことから、夏は自転車-JRコース、季節が良くなれば歩行-JRコースかなと考えています。

もちろん雨や嵐の時は臨機応変に対応しますが、電車や道で私を見かけたら声をかけてください。酷暑の折ですが、からだに気を付けて元気に夏を乗り切りましょう。

臨地実習 頑張ります！

助産別科「適格認定書」を授与

臨地実習に臨む助産別科の学生に対する「臨地実習適格認定書」の授与式が7月26日（金）に1502M講義室であり、21人が認定書を受け取りました。

授与式では、原田なをみ助産別科長の開式の言葉に続き、竹屋元裕学長が学生一人ひとりに認定書を授与。「一つひとつのお産のかなめとなるのが助産師。安心・安全な周産期医療を支えてほしい」と激励の言葉を述べました。

引き続き、スクリーンには前期4カ月間の充実感あふれる集中講義の様子が、学生たちが唱和する学生誓詞をバックに映し出されました。

学生たちは、19日（月）から、臨地実習に入ります。（入試・広報課）



臨地実習に臨む助産別科の学生（後ろ2列）と関係者

家族への「死の準備教育」のプロセス探る

基盤研究 (C)
2022-25 年

看護学科

熊谷有記教授



高齢化・少子化が進む中で、患者さんが生活の質を高く保ちながら希望する場所で最期を過ごすことを可能にする終末期ケアを確立するために、様々な試みが行われています。その一つに、患者さんやご家族に対して死にゆく際の身体の変化 (dying process) やケアに関する教育があります。家族の死を経験することが少なくなった今日、dying processを含めた死の準備教育がないと、人生の最終段階における生活の質を高めることは困難です。

これまで、死の準備教材として、dying processや家族にも出来るケアの方法を示した「看取りのパンフレッ

ト」の有用性について報告してきました。看取りのパンフレットの使用にあたって、パンフレットの使用時のタイミングや導入の難しさを感じている訪問看護師さんもいらっしゃいました。

本研究では、dying processの説明タイミングの決定や説明の仕方などの臨床判断の実態とプロセスを明らかにし、dying processの説明に関するケアモデルを開発したいと考えております。この研究を通して、患者さんにご家族が少しでも安心して過ごすことができるように、また、大切な方と一緒に過ごした時間がご家族の糧になるように、少しでも貢献できたらと願っています。

「看護部長の仕事、専門看護師の仕事」

子どもたちとの出会い通じ看護観形成



図書館主催の「私の部屋でランチを」が7月29日 (月)、キャンパステラスで開催され、看護学科の三輪富士代教授が「看護部長の仕事、専門看護師の仕事」と題して話しました。

小児看護が専門の三輪教授は、自身の看護観を形成してきた子どもたちとの出会いや、阪神・淡路大震災時のエピソードなど、臨床現場でのさまざまな経験を語りました。

また、前職の福岡市立こども病院では、看護部長として子どもを断らずに受け入れられる体制づくりを目指し、病床拡大や労務管理、人材育成に力を注いだことを語りました。現場にはジェネラリストとともにスペシャリストが必要という考えと小児に関連した専門看護師や認定看護師の教育課程が少ない現状も示しました。これまでの経験を踏まえ、最後に「(本学でも) 自分にできることをしてまいります」と力強く宣言しました。講演後は集まった教職員から多くの質問が寄せられました。(入試・広報課)

看護学科

三輪富士代教授



本格化する就職戦線…本番想定した準備を

リハ学科4年次生へ就勝ガイダンス

リハビリテーション学科4年次生を対象とした就勝ガイダンスを7月19日 (金) に開催しました。理学療法学専攻や生活機能療法学専攻の長期実習が終了し、いよいよ4年生は本格化する就職戦線に向けて動き出します。3専攻合同での就勝ガイダンスは、就職活動に対する姿勢や知識を身につけることが狙い。

今年度は、新企画として「大学院生講演会」をプログラムに加えました。演者の本学大学院保健科学研究科の金井大慈朗さんからは、学部での卒業研究から、現在のテーマ「アスリートのスポーツ障害予防に関する研究」に取り組むまでの一連の過程を通して大学院の魅力が語られました。また、進学希望者だけでなく就活生にも共通する面接試験に触れ、「情報収集」「本番を想定した準備」の重要性を後輩たちへ示していました。学生たちが今後の進路決定や就職活動に活かしてくれることを期待します。(就職・実習支援課)

学部の後輩を前に講演する金井さん



週間行事予定（8月6日～26日）	
8/6（火）	研究倫理・不正防止、研究費の適正使用に関する研修会 （15:00～ Zoomオンライン）
8/18（日）	8月期オープンキャンパス
8/23（金）	情報セキュリティ研修会 （10:30～ 1300L講義室）
8/25（日）	チャレンジ熊保大！推薦選抜対策講座
8/26（月）	FDセミナー （13:00～ 1500・1501講義室）